

2018年度 後期授業評価アンケート 顕彰科目担当教員コメント

教員名	松田敬之
顕彰科目名	日本史学演習A・B
<p>●授業運営において工夫されている点</p> <p>演習科目という性格上、学生の主体性が求められることもありますし、授業内容そのものについて特段工夫をしているような点はありません。本学着任以来、ゼミ運営等については、常日頃より学科主任の鈴木康子先生や、松田隆行先生をはじめ、学科の先生方、また学生支援室の皆様にご相談し、適切なアドバイスを頂戴しながらやってまいりました。</p> <p>ただ、授業で例年必ず実施していることは以下の4点になります。</p> <p>①3年ゼミの時点で、国立国会図書館関西館において〈来館ガイダンス〉を180分程受講させるようにしています。近年は担当教員が学生であった時代とは大きく異なり、インターネット社会でもありますので、平素のゼミ発表（レジュメ作成）や卒業論文執筆にはこれ等のツールを十分に活用してもらう必要があります。</p> <p>各種データベース中、自分が必要とする文献を素早く、また的確に入手する為、国立国会図書館のNDLオンラインはゼミ生に使いこなしてもらえよう、新年度4、5月中に上記ガイダンスを受講し、関西館の職員よりレクチャーをしてもらう試みを続けています。日本史学演習Bを受講する4年生の多くは、このガイダンスで学び、登録利用者カードを発行してもらうことにより、国会図書館を上手く活用して、報告に繋げられるようにしているようです。</p> <p>②また、新3年ゼミ生にはゼミ発表の準備に際し、新4年ゼミ生数名にお手本代わりの「模擬発表」をしてもらうことにより、発表方法やレジュメ作成に資するようになっています。これは4年ゼミ生にとっても、下級生を問わず「相手にわかりやすく説明する」というスキルを磨いてもらう意味でも良い経験になっているのではないかと思います。</p> <p>③既に絶版・品切れとなった図書を手に入れる為、〔日本の古本屋〕等のサイト検索だけではなく、市内にある専門書を中心に扱っている古書店や、年数回開かれている古書即売会（古本市）へ積極的に足を運ぶように、とその都度指示を出すようにしています。</p> <p>④最後になりますが、授業中のゼミ発表に際してのコメント時には、関連する文献で新刊や近刊についても近刊検索情報サイト等を使い、適宜指示をするように心掛けています。</p> <p>●今後取り組んでいこうと考えておられることなど</p> <p>各種データベースも割と頻繁に更新されることが多く、国会図書館でも2018年1月には従来のNDL-OPACよりNDLオンラインに変わり、検索方法も日々進化している状態です。データベースは漸く慣れ始めた頃にまた更新されるといったスピードで、担当教員自身がこれについていくのが正直一杯の現状です（PCやスマートフォン等のOSについても同様）。したがって、3年、4年を問わず、今後のゼミ指導でも、このようなスキルを教員自身がある程度学生に説明し、また使えるように研鑽を積まなくてはならないのではないかと、とも考えております。</p>	